

## 漢字と漢字の認知心理学について

About Chinese Character and the Recognition of a Chinese Character

李艷

Li Yan

### 要 約

本論文は、心理学の立場から漢字と漢字の認知について検討する。漢字はそれ自体論理性があり、漢字を学習することは人間の論理性を育てるのに役に立つ。漢字は形、音声、意味という3つのコーディングがあり、視覚的に優れている。また、漢字は弁別や認知もしやすい文字である。従って、漢字は学習しやすい文字であるといえる。以上の視点を踏まえて、漢字の優位性、漢字の認知、漢字と脳、漢字の学習、漢字と書道、漢字ゲーム、現代漢字心理などについて論じる。

**Key Words** : 漢字 (Chinese Character), 認知 (Cognition),  
心理学 (Psychology), 脳 (Brain), 学習 (Learn)

### はじめに

日本の2008年の世相を表す漢字は「変」と発表した。アメリカのサブプライムローン問題やリーマン・ブラザーズの破綻など世界経済に大きな変動があった。それに伴う株価暴落や円高ドル安など金融情勢の変動、日本の首相や米大統領の交代といった政治的な変革などがあった理由で決めた。食の安全性に対する意識の変化や、地球環境の異変の深刻化なども反映された。一方、ノーベル賞受賞や北京五輪などもあり、良くも悪くも変化が多い一年であったことを反映した。「来年は良い年に変えていきたい」という期待の声も現れた。このように、一文字で一年間の世相を表現するのは、漢字の大変魅力的なところであると一般に思われている。

現在、漢字は中国だけではなく、東南アジアの多くの国々において使われている。漢字は象形文字で、一字一字が文字であるとともに、それぞれの文字がひとつの概念を表しているから概念記号と言える。すなわち、一文字が一語でもあるから、漢字に対する認知のしかたは、英語のようなアルファベット文字に対する認知とは違うと考えられる。

## 1. 漢字の優位性

### 1.1 漢字を使う民族一知的な民族

日本人や中国人は知的な民族であると世界の人々に思われている。アメリカのある学者による調査研究の結果、中国人と日本人のIQが世界中で大変高いことが認められた。確かにアメリカの12万人のトップレベルの科学者の中で、中国系を含む漢字圏の人々が4分の1を占めている。また、アメリカの各民族の中で、中国人のIQが一番高いという報告もある。これはおそらく漢字の使用と関係があり、それには4つの原因が考えられる。

- a) 漢字の勉強は、子どもの知能開発に大きな潜在力を与える。
- b) 漢字はアルファベットなどの表音文字より優れたところが多い。
- c) 漢字は中国の悠久なる文化である。漢字の発明と使用は、中国の文化と文明の発展を促進させた。
- d) 漢字はそれ自体論理性があり、漢字を勉強することは、同時に人間のロジックを育てることにつながる。つまり、漢字は人間の論理性を高めることに大変有益である。中国語と英語の両方ができる子どもを対象にした推理能力の研究結果によると、子どもの推理能力は中国語の能力と相関が高く、英語の能力との相関は低かった。

### 1.2 漢字と知能の発達

経済発展と教育レベルの高い社会にいる欧米人のIQより中国人のほうが高い。現代生理学の研究結果によると、欧米人と東洋人の脳の生物的構造はまったく同じで、また脳の二つ半球の働きも変わらない。恐らく漢字の使用に関係がある。

漢字は形象、音声、意味が微妙に融合して、形から意味を想像することが

できる。漢字のこの特徴は脳の二つの半球の働き（右脳は図形の認識，左脳は言語，抽象思考）にぴったり一致し，漢字を使うだけで，右脳の働きを促進させる。言い換えれば，漢字の使用は左脳の働きを発展させるだけでなく，右脳の働きをも促進する。

王（1990）は，チベット民族と新疆ウイグル民族の60人を対象にして，表音文字のチベット語の文とウイグル語の文，表意文字の漢字の文の弁別実験を行った。その結果，両民族とも漢字の弁別において，脳の二つ半球が同時に働いていることが明らかになった。しかし，表音文字のチベット語の文とウイグル語の文の弁別において，2つの傾向が見られた。ひとつの傾向は，5年以上にわたって漢字を使ってきたチベット人はチベット語の文を弁別するときも脳の二つの半球を同時に使っていた。もうひとつの傾向は，1年間ほど漢字を勉強したチベット人とウイグル人，および4年間ほど漢字を勉強したウイグル人は母国語において，左脳に優位が見られた。この実験は漢字に対する認知は脳の二つの半球の働きであることを証明している。この研究方法を使って，漢字を勉強した外国の留学生を対象にした実験でも同じ結果が得られた。

漢字には3000年以上の歴史がある。漢字の発明は古代中国人の知恵と想像力の結晶であると言えるだろう。たとえば，安心の「安」の字において，「うかんむり」の部分は家を意味し，下の部分は「女」という文字で，家に女性がいることを意味し，全体で安心できるという意味である。また「家」の字には「豚」という字の中の一部も含まれている。これは漢字が発明された時代の農耕文化を反映している。

さらに，例を挙げよう。「木」偏のある漢字は植物に関係がある。「村」の字は直接植物を意味していないが，木がないと，村にはなれない。「手」偏のある漢字は手の動作に関係があり，「足」偏のある漢字は足の動作に関係がある。従って，すべての漢字は論理性を持っているので，漢字を勉強すれば，左脳の論理的思考を働かせるだけでなく，右脳の形によるイメージ思考（形象思考），直観思考をも働かせるようになる。したがって，漢字は人

間の知能の開発を促進するのに優れた文字である。漢字の一つ一つの微妙な組み合わせは中国人の祖先の知恵の結晶である。

Thomas.R. Blakeslee (1980) の『The Right Brain』という著者があり、日本訳は『右脳革命』である。その著者 Thomas は日本版の序文の中で次のように述べている。「日本の経済の成功は日本人の左脳—論理的思考と右脳—形象思考の優れた調和のためである。論理的思考のみの欧米人にとって大変羨ましいものである」。ここで、注目されるのは、日本人の脳の両半球の働きの調和は、漢字を使うことによって形成されるということである。

## 2. 漢字の認知

漢字は表音文字と比べて、次のような特徴がある。

**2.1 漢字には形象、音声、意味という3つのコーディング、つまり属性がある。**

認知心理学理論によると、表音文字を認知するとき、音声による伝達情報を転換するプロセスがある。つまり、表音文字の視覚情報を音声情報に転換して、それから意味を思い出すわけである。一つ一つの表音文字は表音だけであって、意味を示すことができない。

一方、漢字の認知の過程はどのように考えたらよいのか。この問題に関しては、論争が多い。一つの理論は、漢字は表音文字ではないので、漢字を認知するとき、文字を音声に切り替えて、意味を考える過程が必要でない、形から直接意味を理解する。また、「漢字の認知は表音文字と同じである」と主張する学者もいる。中国の心理学者の研究によると、漢字の認知においては、情報処理の方法が多様である。形象、音声、意味を同時に使い、漢字による多彩な脳への入力には表音文字より、認知や記憶のスピードが速く、正確である漢字独特の優勢なところが証明されている。

## 2.2 漢字の形態

漢字は上記のごとく、要素をでたらめに配列して作られた形態ではない。形態としてのまとまりができるように、要素を配列する暗黙の規則が存在しており、それによって漢字は形態として高度に構造されたものとなっている。

また、このことにより漢字の複雑さは減少し、形態としての簡潔さが保持されている。

### 2.3 内部刺激表象の形成

ひとつの漢字を識別するのに要する時間は、条件によって異なるが、せいぜい数十ミリ秒（1ミリ秒は千分の一秒）である。このように極めて高速の処理を可能にする条件とは何だろう。

そのために、漢字の内部刺激表象が形成されるまでの過程について考えるべきである。刺激表象の形成に有利な条件は、刺激が単純なことである。ところで一般に単純性という場合には二つの意味がある。一つは要素が少ないという意味の単純性、もう一つはゲシュタルト心理学でいうよき形態の法則に従うような意味の単純性である。

漢字のよき形態としての単純性を支えているのは、次の三つの特性である。

①象形文字のために、刺激表象の形成は容易である。②漢字の基本要素として共通する基本形態が存在することによって、漢字の形としてのバリエーションが減少し、結果として漢字全体に簡潔な印象を与えている。③漢字の対称性（後に詳述する）。

また、漢字の記憶表象の検索・比較・照合過程において、高速の漢字認知を成立させるメカニズムについて考えるべきである。

### 2.4 常用漢字と非常用漢字の認知

陳（1980）は、漢字の形象、音声、意味に対する情報処理について、常用漢字の場合と非常用漢字の場合を比較する研究を行った。その結果、常用漢字を認知する時は、形象—意味の入力方法を使う。非常用漢字を認知する時は、形象から、音声にして、それから意味を思い出し、形象—音声—意味のコーディング方法を使う。この実験では、漢字に対する認知において多種類の入力方法を同時に使うので、認知、弁別、記憶が表音文字より速く、しかも正確であることを証明した。

漢字を読むときの情報処理の研究（陳，1982）によると、中国人は知らない漢字を読むとき、多くの方略を使い、約80%正しい発音ができ、また形象からその意味がわかる。

## 2.5 漢字の認知は視覚的に優位

安子介（1992）は「漢字は象形文字であり、表音文字とまったく違う。象形文字の認知において、視覚からの情報伝達は、聴覚より速く、優れた伝達方法である。」と述べている。

多くの心理学者の研究は、各種の感覚の中で視覚による伝達が優れていることを証明している。人間は五官を使い、外部の情報を受容する。そのうちの80%は視覚伝達によるものである。漢字の規則的鮮明な形から意味を予測することができる。これは表音文字の音声から意味を理解過程よりずっと便利である。漢字の形そのものが意味を持つという特性が、漢字の認知は視覚優位で情報処理の効率性にぴったり合い、表音文字より認知しやすい。

表音文字は、一つの単語が多くのアルファベットの文字の組み合わせで成り立っている。したがって、同じ内容の文章でも中国語で表すと短い、日本語で表すと長くなる。なぜなら日本語は漢字だけではなく、平仮名と片仮名のような表音文字を含むからである。さらに英語はもっと長くなる。同じ内容の新聞で、日本語は中国語の1.5倍のページ数になり、英語は中国語の2倍またそれ以上のページ数になる。また、英字新聞を読む時間は中国語の1.6倍であった。これは中国語の視覚優位によるものである。

## 2.6 漢字の音声の認知

コンピューターの技術は日進月歩、コンピューターに漢字を使用するのが難しいと言われ、漢字の変わりにアルファベット文字を使用することを主張する時代があった。確かに、数十年前にコンピューターで漢字を使うには問題があったが、近年、この問題は完全に解決された。実際には漢字の入力スピードが速く、漢字に含まれる意味が豊かで、情報量がアルファベットより多く、コンピューターによる情報伝達が優れていることがわかった。またFAXが発明されたことによって、漢字が通信言語として使うことができるようになった。最新の技術では、音声でも入力できるようになった。漢字には4つの音声変化があり、音声と意味のつながりで音声を読めば意味がわかり、コンピューターに弁別しやすい。

### 3. 漢字と脳

#### 3.1 大脳皮質の働き

大脳皮質は左右両半球からなり、表面積は2000～2500cm<sup>2</sup>、外側は灰白質で、内側は白質である。皮質の厚さは約2～4mmで、6種類の異なる神経細胞からできている6層構造である。

皮質は前頭葉・頭頂葉・側頭葉・後頭葉に分けられ、各部位はそれぞれ異なった機能を有する機能局在であることをブローカ（1861）やペンフィールド（1930）が明らかにしている。

言語に関する大脳の領域には、前言語野、後言語野、上言語野の3箇所がある。これらの言語野は通常大脳皮質の左半球にあり、左右両半球の機能を特徴付けている。

#### 3.2 漢字は複脳文字

ブローカ（1963）は、運動性失語症の20例のうち19例が左半球に病変を持つことを指摘した。しかし言語に関する左脳優位説は、表音文字を使う人々には当てはまるが、漢字を使う人々の言語と脳の間関係を説明できるかどうかを検討するため、郭（1984, 1992）は脳に損傷がある中国人の患者を対象にして、漢字と脳の間関係を研究した。すなわち、脳に損傷がある10例の患者（うち3例は右脳に損傷があり、7例は左脳に損傷がある）における漢字の認知、理解、読み、書きについて調べた。その結果、漢字の認知に異常がある患者は一人もいなかった。さらに、左脳の後ろにある角回野に損傷がある患者2例を対象に調べた結果、右半側視野に提示した漢字が読めず、左半側視野の漢字を読むのは正常であった。また両手とも漢字を書くことができた。このような研究結果から、中国人では右脳にも漢字の読みや書き機能があり、漢字に対する認知は脳のどちらの半球にも関係があることが明らかになった。

また、郭（1984）は、脳梁切断の6例の患者を対象に漢字の認知について調べた結果、6人の分離脳の患者が両手とも漢字を書くことができた。分離脳とは大脳皮質間の連絡繊維が切断された脳であり、理論的には分離脳の

患者は字を書けないわけであるが、郭の実験研究では伝統的理論に反した結果が得られた。この研究結果も、漢字の認知は脳の二つの半球が同時に働いていることがわかった。すなわち、表音文字は「単脳文字」であるが、漢字は「複脳文字」であることを示している。

#### 4. 漢字の学習

かつて、中国では漢字の学習、記憶、認知において困難があるので、漢字を廃止すべきであるという主張があった。このような主張は主流にはならなかったが、1960年代の終わり頃に、従来の繁体字は画数が多いので、簡体字への改革が始まった。確かに、簡体字は繁体字より書きやすくなったが、漢字がもともと持っている表意的意味を喪失し、漢字が減びるだろうという反対意見が多かった。

##### 4.1 漢字の弁別・識別の優位性

郭（1993）は、漢字で書いた文章とピンイン（中国語の発音を表す記号）で書いた同じ内容の文章を使い、実験を行った。その結果、文章を読む時間は、漢字文を読む時間の方が短く、ピンイン文を読む時間が長い。文章を記憶する時間は、漢字の文章を覚える時間の方が短く、ピンイン文を覚える時間の方が長いことがわかった。

車が高速道路を走るとき、道路標識では漢字は目につきやすいが、アルファベットは目につきにくいことを多くの人々が経験している。このことは、静止状態だけではなく、運動状態でも漢字の認知はアルファベットのような表音文字より優れていることを示唆している。

心理学の立場から言うと、上記のごとく漢字には認知のしやすさがある。これには二つの意味がある。一つは弁別性で、漢字はほかの文字との違いがはっきりしている。もう一つは、漢字には識別性があり、漢字か漢字ではないかすぐ職別することができる。

漢字の弁別性が高いことには、二つの理由が考えられる。一つは漢字を構成する要素が多い。もう一つは漢字を構成する要素のちらばりが大きいということである。漢字の画数の標準偏差は、教育漢字で3.5、当用漢字で3.8で

あり、日本語の平仮名の0.9、片仮名の0.7、アルファベットの0.9よりはるかに多い。漢字の要素数の多いことは、漢字の視覚的弁別性を高めることに役立っている。

#### 4.2 漢字の学習の優位性

曾（1993）は、漢字とアルファベット文字の認知について比較研究を行った。彼は、漢字が多くの情報を持っているので、認知、理解、記憶が当然しやういと仮定した。幼児、小学生、中学生と大学生を対象にした実験の結果は、彼の仮説を証明した。このようにして、再び漢字が情報伝達の最良の文字であることが明らかになった。

石井（1975）は幼児の漢字認知実験を行った。漢字がカタカナより情報処理のスピードが速く、かつ正確であることを証明した。カタカナの文章を読むと、かなり時間がかかるが、漢字は一目見たら大体の意味を把握することができることを明らかにした。石井の実験では、3歳の幼児はカタカナで表した名前は覚えにくい、漢字で表した名前はよく覚えた。つまりは漢字は幼児にとって、一番わかり易く、覚えやすい文字であることを証明した。

Rozin（1970）は8人の「失読児」に30個の漢字を勉強させる研究した。例えば、「母」の漢字を見せ、Mother と発音させた。「小」の漢字を見せ、Small と発音させた。つまり、漢字を見せ英語で答えさせる。その実験の結果は、英語を読めない子どもでも、漢字を通じて勉強すれば、英語の発音ができるだけでなく、その字の意味を理解し、その字を覚えるようになった。漢字は少ない文字数で、多彩な意味内容を込めることができる。あえて言えば、最小限の文字数で最大限の意味内容の伝達が可能である。この独特の文字を使用することにより、子どもの失読障害を克服することが可能である。欧米の子どもの約10%が失読障害を持っている。しかし、漢字を使う国である中国と日本では失読障害をもつ児童がほんのわずかである。これはおそらく漢字を使うことに関係があるだろう。

心理学の立場からまとめると、漢字は表音文字より、認知、学習、記憶、弁別・識別などにおいて優れている理由は以下の通りである。

- a) 漢字は象形文字で、配列は2次元空間で整っている。しかし、アルファベットのような表音文字は直線構造で、1次元空間である。2次元空間の文字である漢字は1次元空間の文字より、情報を多く持っているから、認知、記憶、学習、識別、弁別などをしやすい。
- b) 漢字は単音節孤立語で、1文字1音しかない。一方アルファベットを使う言語はたくさんの文字が必要である。したがって、一つの漢字を学ぶことは一つの英単語の場合より簡単である。

漢字の合理性について説明しておこう。既述のごとく、漢字は少ない文字数で、多様にして多彩な意味内容を込めることができる。元来漢字は概念文字として工夫されたものであるから、1字のみで、それぞれに特定の概念を表示することができる。例えば、「徳」とか「愛」とかの抽象概念を示すものから、「山」「川」「草」「木」のような、具象概念を示すもの、あるいは「歩」「走」「晴」「雲」のような動きや状態を示すもの、さらには「雨」「水」「影」「煙」などのようなはっきりとその形が捉えがたいものまで、たった1字で示すことができる。漢字は単音節言語で、1つ1つの音がそれぞれ1つの概念を示し、合理的で弁別は速くなる。英語のような多音節言語を表音記号のアルファベットで書くときには、どうしても言語の表記の長短がさまざまになり、不体裁になる。それゆえ、漢字のような単音節言語は情報伝達にとって大変合理的で、情報処理がしやすくなる。

- c) 大部分の漢字は対称性を持つ。

完全対称を持つもの(6%)：土、口、田など、

繰り返すもの(4%)：森、品など

一部対称、また同じ偏をもつもの(約89.2%)：〈任 俠 供〉

〈被袖〉など

対称性のないもの(0.8%)：長 食 歩など

画数が多くなると、対称率が高くなる。12画以上の字の対称率が95%で、18画以上の字の対称率をもっと高く、99%に達している。よく

使われる4500の常用漢字の中に対称性がないものは230字しかない。対称性がある文字は、認知、理解、記憶などしやすい。

d) 漢字の仕組みは論理的である。

画数が多い漢字は、画数が少ない漢字の組み合わせたものであるから、画数の少ない簡単な漢字を覚えたら、いくら複雑な漢字でも、認知が難しくない。例えば、「晶」は三つの「日」の組み合わせ、「森」は三つの「木」の組み合わせ、「炎」は二つの「火」の組み合わせでできている。「鑿」は「歩」「頁」「卑」の三つの文字の組み合わせである。

e) 英語のような表音文字では、bとd、pとqのように認知・弁別の混乱を起こりやすい文字群がある、漢字を認知するときではこのような混乱が起こりにくい。

f) 常用漢字を覚えるのは中国語勉強が早道である。

中国語の新聞を読めるようになるため、2000字の常用漢字を覚える必要がある。安（1970）は140万字量の中国新聞を分析した結果、使われた漢字は4687字で、そのうち特によく使われた漢字は3650字である。文章の中に頻度の高い文字が集中して出てくることは中国語の特徴である。2000字常用漢字を勉強したら、中国語新聞の内容が大体理解できる。3600字の漢字を覚えたら、中国語ができる。したがって中国語の学習は常用漢字の勉強から始まるのがよい。

## 5. 漢字と書道

漢字文化は、中国人を含むアジア漢字圏の人々に多大な恩恵をもたらしている。書道文化も漢字文化から大きな影響を受け、世界的に注目されるアジアを代表する文化の一つである。高（1986）は書道の心理学を研究した。その研究結果によると、書道をするとき、右脳の脳波が左脳より活発になる。しかし、図を描くときは、脳の両半球の脳波に相違が見られない。一方、欧米人は字を書く時、左脳の脳波が右脳より活発になる。本来、人間の右手の動きは左脳にコントロールされるので、右手で書道をする時には左脳の脳波活動が活発になるはずが、高の研究はまったく反対の結果である。したが

って、書道は右脳の働きを促進することが証明された。心理学の研究によると、反応時間は知能と負の関係にある。つまり、反応時間が短い人は知能のレベルが高い傾向である。郭（1993）は書道の時間と反応時間との関係について研究した。その結果、被験者に30分間書道をさせた後には、反応時間が短縮した。しかも、書道を多く経験すれば、反応時間の短縮する傾向が認められた。しかし、30分間ほかのこと（例えば計算など）をさせた後では、反応時間に変化は見られなかった。

それゆえ、書道は反応時間を短くさせることにより、知能のレベルを高めるのに役立つことができるかもしれない。子どもの知能発達を促進するために書道をさせるのもよい方法だろう。それだけではなく、人は書道をする時、呼吸が穏やかになり、気持ちが落ち着き、心身ともリラックス状態になり、健康にもよいである。書道は、中国の気功や太極拳と同じように健康を促進する大変よい効果があるといえよう。

## 6. 漢字ゲーム

すでに述べたように漢字は、世界でも独特な文字で、漢字は他の表音文字にないゲーム的機能が潜んでいる。漢字が発明されて以来、中国では漢字ゲームは絶えずに人々に楽しみを与え、豊かな民族文化を生み出してきた。

以下代表的なゲームを紹介しよう。

### ① 対聯

対聯とは一定の規則に従い文字で、3枚の赤紙に文字を書き、建物の入り口または部屋の中の主要な飾り場の両側と上に張る。右側に張るのは「上聯」、左側に張るのは「下聯」、上に張るのは「横批」と言う。「上聯」と「下聯」は言葉の意味が対照的になる対句であり、「横批」は対句の意味をまとめたり、他の意味に転じたりする短い一句である。中国では古来、「春節」を祝う時に張り出されることから、「春聯」とも言う。通常、「対聯」はめでたいことを書くものであるが、時に時勢を表現したり、風刺したりにも使われている。

少し以前の朝日新聞に、江沢民や胡錦濤に纏わる中国の「対聯」が紹介された。

上聯：長江，嫩江，松花江，江江沢民

下聯：太湖，洪湖，番陽湖，湖湖錦濤

横批：容積不足

日本語の意味は以下のようなものである。

長江，嫩江，松花江，どの川も民を潤す

太湖，洪湖，番陽湖どの湖も錦の波だ

容積が足りない。

(注：容積と容基は同発音：rongji)

実際、1999年に上記の川と湖は大水害を起こしている。この「対聯」から、朱容基首相のような強いリーダーがもっと必要だという、中国人民の心からの声が聞こえてくる。

時勢を風刺するもう一つの例をあげよう。

中国の文人は実に芸が高い。大陸が国民党政府支配だった時に次のような「対聯」が作られた。

上聯：二，三，四，五

下聯：六，七，八，九

横批：南北

日本人にはまったく理解できないだろう。

よく見ると、「上聯」には「一」がなく、「下聯」には「十」がない。「横批」には「東西」がないことに気がつく。

中国語では、「一」は「衣」と同発音 (yi) で、「十」は「食」と同発音 (shi) である。「東西」(dongxi) とは、日本語の「物」と言う意味でもある。「缺衣少食没東西」、つまり、衣食も足りず品物もない世の中だと、社会を痛烈に批判した。

## ② 回文

「軽いなイルカ」「竹藪焼けた」「Madam, I 'm Adam.」など、回文はどの国にもある代表的な言葉遊びである。日本には宝船に添えられた回文歌がある。

中国にも回文がある。特に回文で古典詩を作る「回文詩」は、古代から作られ、その作品数も多い。しかし、その作品を見てみると日本の回文と少々違う面がある。

一つ目は構造上の違いである。日本では、文頭から読んでも文末から読んでも同じ文になる回文が多い。これに対して中国では、同じ文になるのは比較的少なく、文頭から読んでも文末から読んでも意味が通ればよいとするものが多い。

二つ目は、中国における種類の多さである。回文詩と言っても「玉連環」「連環回文詩」「脱卸連環」「転尾連環」「転尾減字連環」「轆轤回文詩」など様々な種類がある。

さらに中国の回文詩における特徴として、規則の多さがある。回文詩は古典詩に仕立て上げるので、回文であると同時に、四言、五言、七言などの音数律や、押韻、二四不同などの韻律に従う。日本の回文や回文和歌に比べると、その越えるべきハードルがかなり高いことが分かる。歴史的にも、時代が下るにしたがってより高度な回文が作り出されており、意図的にハードルを高くしてきているように思われる。

日中の回文におけるこのような特徴は、一つには言語の違いによるものであろう。それと同時に、回文という言葉遊びの性格の違いも、大きな要因になっているのではないだろうか。そこで中国の回文詩を通して、中国語の特徴と回文のおもしろさを生み出すポイントを考えてみよう。

#### 回文詩

中国における回文詩は日本のように、文頭から読んでも（順読）、文末から読んでも（倒読）同音になるものは少ない。

梁・元帝〈後園作回文詩〉

#### 【順読】

斜峰绕径曲	斜峰 繞る 径の曲るを
耸石带山连	耸石 帯ぶ 山の連なるを
花餘拂戲鳥	花の徐たるは戯る鳥を拂い
樹密隱鳴蟬	樹の密たるは鳴く蟬を隠す

## 【倒読】

蝉鳴隱密樹 蝉 鳴き 密樹に隠れ  
 鳥戯拂餘花 鳥 戯れ 徐花を拂う  
 連山帯石筍 連山 石の筍ゆるを帯び  
 曲径繞峰斜 曲径 峰の斜めたるを繞る

このような回文詩においては、順読でも倒読でも文意が通り、韻律もあっているものが多い。日本の回文では、散文でも和歌でも一定の対称性があるのに対し、上の作品ではそのような対称性はない。一方中国においても、回文詞には、対称性を持つ作品が多い。詩と比べて、詞の韻律がさらに細かいため、より高度な技術が要求される。そして、回文詞は対称性を持つ詞と、対称性を持たない詞に分けられる。対称性を持たない詞は多くの回文詩と同様に、倒読しても文意と韻律があっていることが必要とされる。以上述べてきたように漢字圏の人々は漢字ゲームを楽しんでいるうちに知恵を増し、脳の動きのトレーニングも行ってきたといえる。

## 7. 漢字文化圏の現代漢字心理

世界は使用する文字の違いによって、いろいろ異なる文化圏を形成して来たと言える。西はラテン語文化圏、東は漢字文化圏になる。漢字文化圏の主要な国は中国（大陸、台湾、香港）、日本、朝鮮、韓国、シンガポールなどの国である。

### 7.1 日本の漢字

1919年：文部省は2600字の「漢字整理集」を発表し、正式に漢字の使用量を制限する動きが始まった。

1923年：文部省は1962字の「常用漢字表」を制定した。その中に、154字の簡体字があり、小学校で学習する漢字として1360字が定められた。

1942年：文部省の国語審議会は2528字の文字の「標準漢字表案」を修正し、そのうえ2669字の漢字は義務教育に必要な漢字であることを決めた。その中に簡体字が80字あった。

1946年：1850字の「常用漢字表」を公示し、また法令、正式公文、出版

物では、これに従うべきことを明記した

1948年：「当用漢字表」に、「当用漢字別表」として“教育漢字”は881字を定めた。

1958年：“881字の教育漢字”を小学生6年間の教育計画に取り入れ、「学年別漢字配当表」を作成した。

1968年：1958年に作成した「学年別漢字配当表」に115文字を追加して、現行の「教育用漢字学年別配当表」を作成した。

1977年：1900字の「新漢字表試案」が発表された。これは1923年の「常用漢字表」の改訂版である。

1979年：1926字の「常用漢字表」（修正草案）が発表された。

1981年：1945字の「常用漢字表」が正式に決定され、同じ年の10月内閣公示第一号として公示された。

以上の流れを見ると、日本では使用する漢字を制限するが、廃止はしなかった。日本では「ローマ字協会」があり、漢字の代わりにローマ字を国の文字にすることを提唱していた。一方日本語はローマ字化にはなっていないが、導入された。ローマ字のお陰で、日本ではコンピューターの技術を進めることができた。

次に、日本人が創作した「新漢語」について述べておきたい。

江戸時代末期から明治以降の日本社会では、異質なヨーロッパ文明を吸収するために、独特の漢語を工夫して、それを駆使してきた。現在の日常語の多くは実のところ、江戸末期から明治・大正時代にかけて、日本人によって工夫された「新漢語」が重要な位置を占め、中核になっている。例えば「権利」「義務」「採決」「議決」「機関」「経済」「社会」「物質」「現象」「印象」「抽象」「象徴」「具体」「概念」「宗教」「主観」「客観」「消費」「保障」「条件」などがあげられる。この中には、日本の古典語としてすでに存在しているものも若干はあるが、日本に用いられているこれらの言葉の意味内容は、日本人にとって新しい概念を表すように工夫され、すり替えたものである。「政治学」「哲学」「文学」「論理学」「倫理学」「心理学」「生物学」「生理学」などの学術用

語も、明治時代の日本人が工夫した「新漢語」であるが、これらの言葉は、いまや学術公用語として、中国においても一般に使用されて、「漢字の逆輸入」とも言われている。

日本社会の近代化のために、漢語は実に重要な役割を果たしてきた。「新漢語」が新しい文化・文明の導入や社会の発展繁栄のために不可欠なものであり、徹底的に日本社会に浸透し、今日の日本の繁栄も得られたと言えるだろう。

## 7.2 朝鮮・韓国の漢字

中国文化は朝鮮にも大きな影響を与えた。「儒教」が朝鮮の「国学」となり、漢字も朝鮮に入り、長い時代にわたって朝鮮の文字として使われていたが、漢字の改革も行われた。

1944年、朝鮮王朝は「訓民正音」のピンインを作成し、1946年にそれを朝鮮文字に書き直し、方案を定めた。これらを「諺文」と呼ぶ。

日本は30年間朝鮮を占領した。日本の占領期間に文化の侵略もあり、朝鮮語に一部の日本語漢字を混入した。

第二次世界大戦後、朝鮮民族意識が高まり、まず北（朝鮮）から漢字を廃止し、朝鮮語に戻った。その後、南（韓国）も同じ傾向があり。1948年韓国政府は「諺文専用法」を制定し、すべての公務書類における漢字の使用を禁止した。

1951年、韓国は「常用1000漢字表」を定め、「教育漢字」と呼ばれた。

韓国政府は「臨時制限漢字一覧表」（1300字）と「常用漢字表」（1300）を定め、公示した。さらに中学生教育用漢字（524字）を選び、簡体文字としたが、その構造は中国の簡体字とは異なる。

1992年8月、中韓国交関係が成立し、韓国では漢字と中国語のブームが起こり、HSK（中国語レベル試験）を受ける青年が増えた。

1999年2月韓国政府は、1948の「諺文専用法」やすべての公務書類における漢字の使用を禁止する公示を取り消して、初めて公務書類に漢字を使うことができるようになった。

### 7.3 ベトナムとシンガポールの漢字

紀元前に漢字がベトナムに伝わり、唐の時代の終わりまでには中国の漢字を参考にしてベトナム漢字「字喃」が完成された。発音のみを借り、別の漢字も作られた。「字喃」とは南国の文字という意味である。漢字は1918年までベトナムで使われた。

その後ベトナムでは、フランス植民地になってから、漢字の使用は次第に少なくなった。

シンガポールでは華僑が人口の75%を占め、中国語は政府公用語になり、さらに漢字の改革も中国と同時に進められた。

1967年、シンガポールの文部省は502字の簡体字を華僑社会に使わせるようにした。そのうち67字は中国の簡体字と異なる。

1974年、シンガポールの文部省は「簡体字総表」を発表し、ここでは2248字の簡体字が記載されている。そのうち10字が中国では使われていない簡体字である。

1976年、シンガポールの文部省は「簡体字総表」の改訂版を発表した。その内容は中国の「簡体字総表」とまったく同じであった。

現在のシンガポールでは英語と中国語が使われていて、英語は政府用言語、中国語は民族用言語である。すなわち、漢字の使用について、韓国、日本、ベトナムなどとは事情が異なる。

以上見てきたように漢字および漢字文化は歴史が長く、また広い地域、多種の民族によって育てられてきた。そこに包容されている知恵は多次元的であり、人間の合理的思考を超えた、偉大なる中国文明の知恵が示されている。歴史的に見れば、中国だけではなく、日本を含むアジア諸国も漢字の恩恵を受けている。万物は変化発展し続けている。漢字と漢字文化も発展しつつある。漢字や漢字文化は国境と民族を超えて、全人類の共有財産になるだろう。

## 引用文献

- 安子介, 郭可教 1992 漢字科学新友展 瑞福有限公司.
- 陳明遠 1980 電子計算机与汲字改革 語文現代化 第1期.
- 陳明遠 1982 語言文字信息处理 知識出版社.
- 郭可教 1984 汉字认知中信息处理方式和神经机制 心理科学通信 第4期.
- 郭可教 1993 汉字认知与大脑两半球关系研究的回顧 心理科学 第6期.
- 郭可教 1993 书法負荷对儿童大脑激活效应的实验研究 心理学报 第4期.
- 高尚仁 1986 书法心理学 东大图书公司.
- 石井動 1975 連想式漢字記憶術—石井式漢字は難しくない 朝日ソノラマ.
- 曾性初 1993 中国语文特征与认知 华东师范大学学报 (教育科学版).
- Rosin P, et al. (1971). American children with reading problems can easily lead to read English represented by Chinese Characters. *Science* 171, 1264-1267.
- 王克虹 1990 藏族, 维吾尔族在表音, 表意文字辨认上的大脑两半球的功能特点 心理科学通讯 第2期.
- 姚金铭 2000 汉字心理学 広西教育出版社.